

# I 調査の概要

- 1 実施目的  
市民が将来にわたり、安全で安心して暮らせる地域社会を目指し、さらに住みよいまちを目指す  
施策づくりのための資料として、田村市政アンケート（市民満足度調査）を実施する。

2 調査項目

調査項目	(1) 市政評価編 (2) 市民意識調査編	属性・市政評価 市民意識・市政要望	9問 43問
------	--------------------------	----------------------	-----------

3 調査対象

- (1) 住民基本台帳（18歳以上）より無作為抽出した調査対象者1,000人

	男性	女性	計
18～19歳	61人	60人	121人
20～29歳	62人	63人	125人
30～39歳	63人	64人	127人
40～49歳	64人	64人	128人
50～59歳	64人	64人	128人
60～69歳	62人	64人	126人
70～79歳	62人	61人	123人
80歳～	62人	60人	122人
計	500人	500人	1,000人

参考（18歳以上90歳以下）

田村市人口：28,076人

男：14,194人

女：13,882人

（令和7年1月1日現在）

（市職員、議員を除く）

4 実施日

令和8年2月16日から令和8年3月16日まで

5 回答数

	調査区分	対象者数	回答者数	回収率
第8回 (R7)	アンケート調査票	1,000人	404人	40.40%
第7回 (R6)	アンケート調査票	1,000人	349人	34.90%
第6回 (R5)	アンケート調査票	1,000人	356人	35.60%
第5回 (R4)	アンケート調査票	1,000人	396人	39.60%
第4回 (R3)	アンケート調査票	1,000人	405人	40.50%
第3回 (R2)	アンケート調査票	1,000人	414人	41.40%
第2回 (R1)	アンケート調査票	1,000人	443人	44.30%
第1回 (H30)	アンケート調査票	1,000人	444人	44.40%

回答方法内訳（18～40代の市民へは、QRコードのみ送付し電子回答のみとした）

調査票回答（紙） 221件

電子回答（ゆびナビ） 183件

6 担 当 田村市 総務部 総務課 秘書広報広聴係

## 7 調査内容

### (1) 市政評価編 9問

○回答者の属性・田村市の住みやすさ

問1～5 属性（年齢、性別、居住地域、家族の人数、職業）

問6 田村市に住み続けてからの年数

問7 田村市の住みやすさ

○市政各分野における満足度と期待度

問8 市政各分野の施策について、日ごろ感じられる満足度

問9 市政各分野における期待度（今後、力を入れてほしい施策）

### (2) 市民意識調査編 43問

○市民サービスについて

問10 市役所・行政局を利用したことはあるか

問11 市役所職員の対応

└ 問11-① 市役所職員の対応で改善してほしい点

○たむら市民大学たまりについて

問12 たむら市民大学たまりの認知度

問13 たむら市民大学たまりで学んでみたい講座

└ 問13-① たむら市民大学たまりで教えてみたい講座

○公共交通について

問14 公共交通機関の利用頻度について

└ 問14-① 利用している公共交通機関について

問15 公共交通に対する考えについて

問16 将来の公共交通に対する考えについて

問17 免許返納した際の交通手段について

○田村スマートインターチェンジについて

問18 田村スマートインターチェンジの認知度

└ 問18-① 田村スマートインターチェンジ利用の有無

問19 スマートインターチェンジの利用方面

問20 スマートインターチェンジを利用しない理由

○マイナンバーカードについて

問21 マイナンバーカードを持っているか

└ 問21-① マイナンバーカードを利用した目的

○孤独・孤立について

問22 人付き合いについて

問23 取り残されていると感じるかについて

問24 他の人たちから孤立しているかについて

問25 あなたにとって安心できる場所について

問26 どのような居場所が欲しいかについて

○ひきこもりについて

問27 自信を含め、親族・知り合いにひきこもりがいるかについて

L問27-① 年齢は

L問27-② 性別は

問28 ひきこもりの方に対して必要な支援について

○受動喫煙の防止について

問29 喫煙の有無について

問30 「受動喫煙の防止に関する条例」の認知度について

問31 公共施設の全面禁煙方針について

L問31-① 分煙環境が望まれる施設について

問32 「喫煙者・非喫煙者」として感じることにについて

問33 喫煙者・非喫煙者双方に求めたい配慮について

○地域活動について

問34 現在、あるいは過去に参加したことがある地域・市民活動について

問35 今後参加してみたい地域・市民活動について

○スマートフォンについて

問36 スマートフォンの所有について

問37 スマートフォンの主な利用目的について

問38 スマートフォンで利用したことのある行政サービスについて

○広報誌「たむら市政だより」について

問39 「たむら市政だより」を読んでいるかについて

問40 「たむら市政だより」を読む時間について

問41 「たむら市政だより」を読まない理由について

問42 市政だよりで取り上げてほしい内容・不必要な内容について

○その他

問43 生活の中での困りごと（自由記載） ※掲載なし

問44 市政運営についての意見・要望（自由記載） ※掲載なし

## 8 集計の見方

- (1) 集計中の「n」は、回答者総数です。該当する回答を複数答える質問については、該当者数で、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数です。
- (2) 図表および本文中の数値(%)は、原則として小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合があります。
- (3) 本報告書中、表やグラフなどの見出しおよび文章中での回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合があります。
- (4) 満足度、期待度の示し方については、下記のとおりです。

### 《市民満足度の示し方》

全体的な市民満足度については、「満足」+「ほぼ満足」の回答者数を、全回答数から「わからない」・無回答数を差し引いた値で割って算出しています。

#### ●市民満足度（割合 %）

$$\frac{\text{「満足」} + \text{「ほぼ満足」回答者数}}{\text{全回答数 (n)} - \text{「わからない」} - \text{無回答数}}$$

### 《満足度の示し方》

各項目の満足度については、満足度のそれぞれの選択肢に、下記に示すような点数をつけ、合計を回答数で割って算出しました。

回答数は全回答数から「わからない」・無回答数を差し引いた値です。

#### ●各項目の満足度（5段階評価）

$$\frac{\text{「満足」} \times 5 + \text{「ほぼ満足」} \times 4 + \text{「ふつう」} \times 3 + \text{「やや不満」} \times 2 + \text{「不満」} \times 1}{\text{全回答数 (n)} - \text{「わからない」} - \text{無回答数}}$$

### 《期待度（今後、力を入れて欲しい施策）の示し方》

各項目の期待度については、「何よりも先に力を入れて欲しい」「かなり力を入れてほしい」を選んでいただいた人の割合(%)を算出しました。

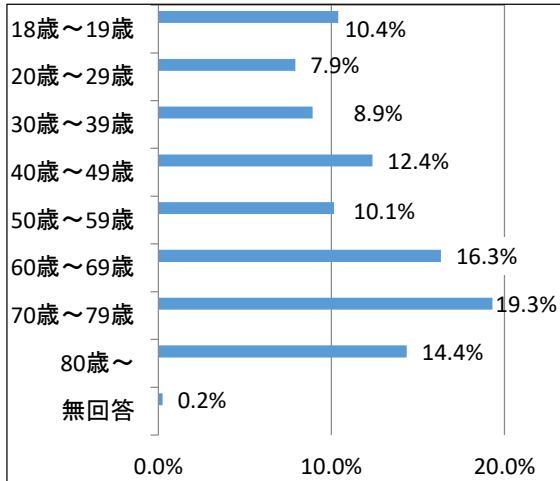
#### ●期待度（割合 %）

$$\frac{\text{「何よりも先に力を入れて欲しい」} + \text{「かなり力を入れて欲しい」回答者数}}{\text{全回答数 (n)}}$$

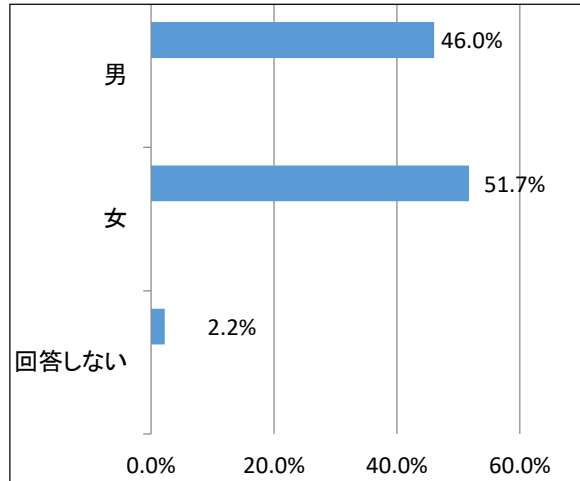
《市政評価編》

○回答者の属性・田村市の住みやすさ

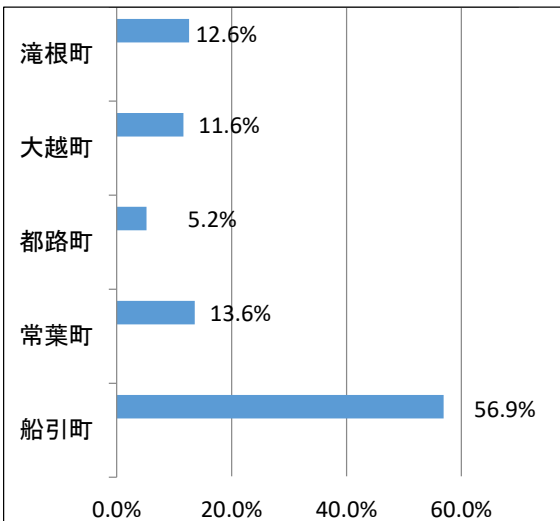
問1 年齢（年代別）



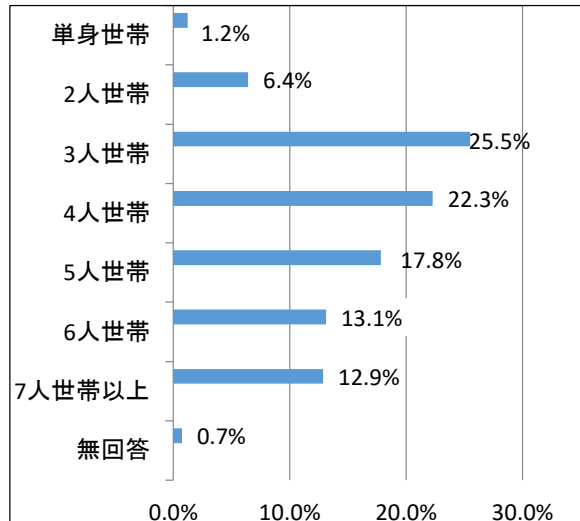
問2 性別



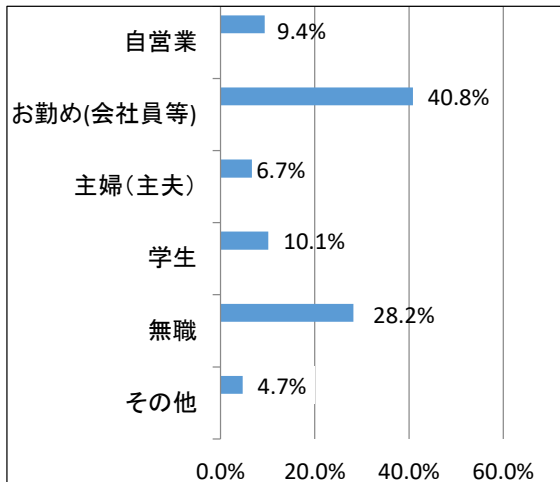
問3 居住地域



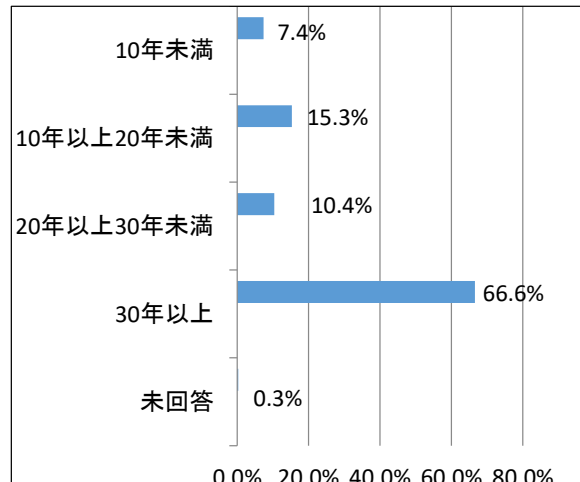
問4 家族の人数



問5 職業



問6 田村市に住み続けてからの年数

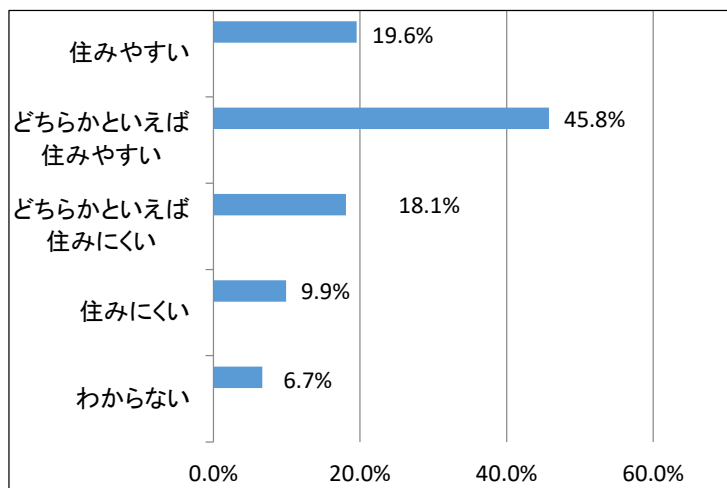


問7 田村市の住みやすさについて

「住みやすい（どちらかといえば住みやすい）」が前年より3.7%減少した。

「住みにくい（どちらかといえば住みにくい）」が前回より3.4%増加した。

住みやすい（どちらかと言えば住みやすい）	65.4%	（前回 69.1%）
住みにくい（どちらかと言えば住みにくい）	28.0%	（前回 24.6%）
わからない	6.7%	（前回 5.4%）



## ○市政各分野における満足度と期待度

問8 市政各分野の施策について、日ごろ感じられる満足度

問9 市政各分野における期待度（今後、力を入れてほしい施策）

市が行う施策や事業について、22項目に分類し、5段階で評価していただきました。

また、同じ22項目で今後、力を入れてほしい施策について選んでいただきました。

### 市政各分野における満足度・期待度

分野	項目		満足度(5段階評価)			期待度(割合)		
			評価	順位		割合	順位	
				今回	前回		今回	前回
医療福祉	①	福祉	3.05	3位	3位	26.5%	5位	5位
	②	保健・医療	2.91	7位	13位	34.4%	1位	1位
子育て・教育	③	子育て支援	3.04	4位	6位	28.7%	2位	4位
	④	幼稚園・保育園	3.18	1位	1位	21.5%	10位	9位
	⑤	義務教育	3.10	2位	2位	26.0%	6位	7位
生涯学習	⑥	芸術・文化	2.88	9位	7位	6.7%	21位	21位
	⑦	スポーツ	2.84	13位	8位	8.9%	19位	18位
生活環境	★⑧	道路	2.59	21位	22位	28.2%	4位	2位
	★⑨	水路	2.76	15位	15位	19.8%	12位	6位
	⑩	上水道・下水道	2.83	14位	14位	21.8%	9位	14位
	⑪	公園	2.67	16位	17位	9.7%	18位	17位
	⑫	緑化	2.85	12位	11位	8.9%	19位	19位
	★⑬	公共交通	2.44	22位	18位	24.8%	7位	3位
	⑭	環境対策	2.94	6位	5位	20.5%	11位	15位
仕事	⑮	商工業振興	2.63	17位	18位	15.3%	13位	11位
	⑯	観光業振興	2.62	19位	16位	10.4%	17位	13位
	⑰	農林水産業振興	2.61	20位	21位	13.9%	14位	8位
安全	⑱	危機管理・防災対策	2.91	7位	10位	28.7%	2位	11位
	⑲	防犯・交通安全対策	2.88	9位	9位	24.0%	8位	16位
地域づくり	⑳	市民協働	2.87	11位	12位	5.2%	22位	22位
	㉑	移住・定住	2.63	17位	18位	11.1%	16位	13位
広報	㉒	情報提供	3.00	5位	3位	13.1%	15位	20位
平均			2.83	-	-	18.55%	-	-

※「★」は満足度が平均未満で、期待度が平均以上の項目

## 市民満足度

○満足～ほぼ満足 15.87% (前回 15.43%)

**満足度** 全22項目の平均値 5段階評価中 2.83 (前回 2.84)

○満足度が高い施策

- 1位 (ー) (前回1位) 幼稚園・保育園 3.18 (↓) (前回3.25)
- 2位 (ー) (前回2位) 義務教育 3.10 (↓) (前回3.19)
- 3位 (ー) (前回3位) 福祉 3.05 (ー) (前回3.05)
- 4位 (↑) (前回6位) 子育て支援 3.04 (↑) (前回3.02)
- 5位 (↓) (前回3位) 情報提供 3.00 (↓) (前回3.05)

○満足度が低い施策

- 22位 (↓) (前回18位) 公共交通 2.44 (↓) (前回2.61)
- 21位 (↑) (前回22位) 道路 2.59 (↑) (前回2.47)
- 20位 (↑) (前回21位) 農林水産業振興 2.61 (↑) (前回2.53)
- 19位 (↓) (前回16位) 観光業振興 2.62 (↓) (前回2.68)
- 17位 (↑) (前回18位) 商工業振興 2.63 (↑) (前回2.61)
- 17位 (↑) (前回18位) 移住・定住 2.63 (↑) (前回2.61)

## 期待度

全22項目中「何よりも力を入れてほしい/かなり力を入れて欲しい」と回答した割合が高い施策。

●期待度が高い施策

- 1位 (ー) (前回1位) 保健・医療 34.4% (↓) (前回36.4%)
- 2位 (↑) (前回4位) 子育て支援 28.7% (↓) (前回24.4%)
- 2位 (↑) (前回11位) 危機管理・防災対策 28.7% (↓) (前回17.5%)
- 4位 (↓) (前回2位) 道路 28.2% (↑) (前回27.8%)
- 5位 (ー) (前回5位) 福祉 26.5% (↑) (前回23.8%)

○上記の結果から、田村市民は教育・子育て・福祉関連に満足感を感じる一方で、昨年度に引き続き、道路や公共交通などのインフラ関係や、農林水産業や商工業振興などの産業施策の満足度が低い傾向が見られます。

○期待度が高い施策を分析すると、満足度が高い教育・子育て関連は現行の施策が評価されている一方、期待度でも子育て支援が高いことから、更なる充実を望む声があると考えられます。

○満足度が低かった「道路」は期待度の4位に挙がっており、市民が現状に不満を覚え、最も改善を期待している施策であると推測できます。

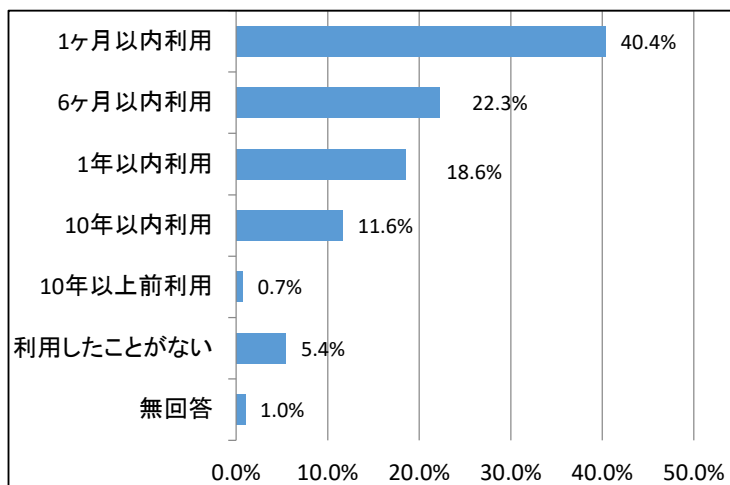
○前回から大幅に期待度が上がった「危機管理・防災対策」については、昨年度の青森大地震や大船渡山林火災等の大規模自然災害の発生により、市民の防災意識が高まったものと考えられます。

《市民意識調査編》

○市民サービスについて

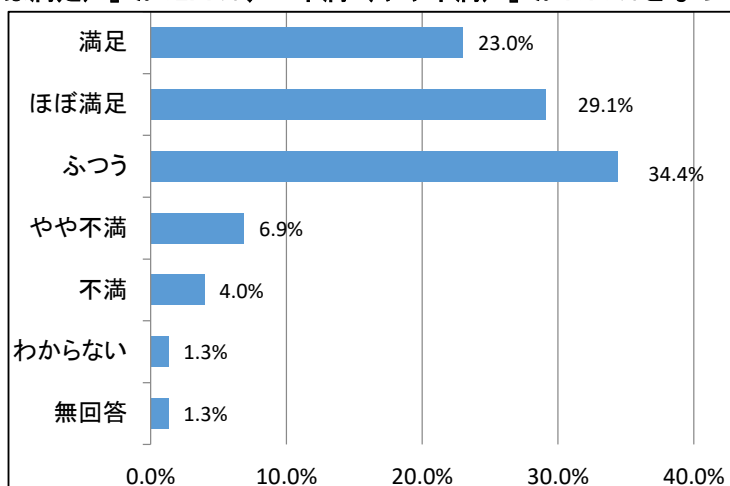
問10 市役所・行政局を利用したことはあるか

○93.6%が市役所・行政局を利用したことがあると回答しています。



問11 市役所職員の対応についてどう思われますか。

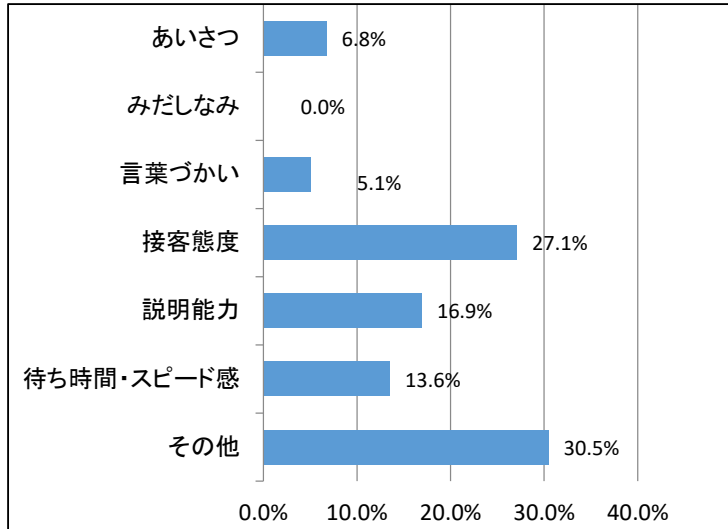
○「満足（ほぼ満足）」が52.1%、「不満（やや不満）」が10.9%となっています。



○市民の94.6%が市役所・行政局を利用した経験があり、行政窓口は市民にとって身近な存在となっています。また、職員対応についても「満足」「ほぼ満足」が52.1%と半数を超えており、全体としては概ね良好に評価されているといえます。一方で、「ふつう」も34.4%と多く、今後さらに満足度を高めていくためには、より丁寧で分かりやすい対応や、待ち時間の短縮、手続きのしやすさの向上などが求められると考えられます。

問11で「やや不満」「不満」とお答えした方

問11-① 市役所職員の対応で改善してほしい点



問11-① その他(記述) P35に記載

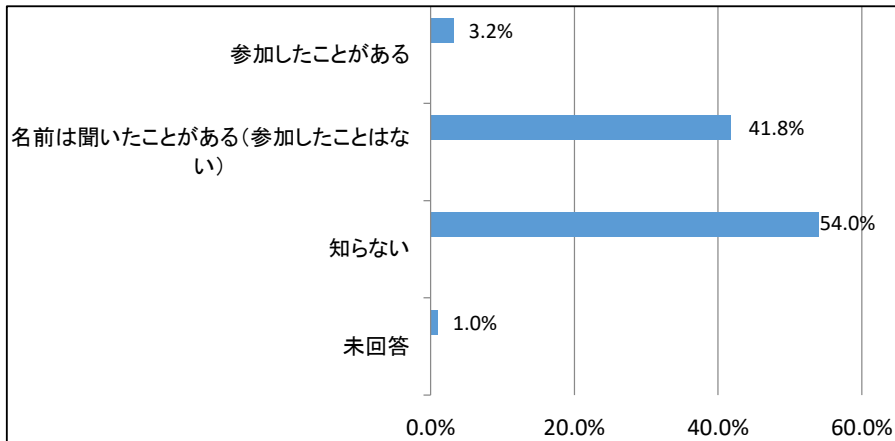
○職員の対応で改善すべき点について、接客態度と説明能力があげられています。

形式的なマナーよりも、接客の丁寧さや説明の分かりやすさ、待ち時間の短縮といった実務的な対応改善を求めていると考えられます。

### ○たむら市民大学たまりについて

問12 たむら市民大学たまりの認知度

「参加したことがある」は3.2%、「知らない」という回答が54.0%となっています。



問13 たむら市民大学たまりで学んでみたい講座について

自由記述 P36記載

問13-① たむら市民大学たまりで教えてみたい講座について

自由記述 P36に記載

○「参加したことがある」は3.2%で、昨年度の1.7%より1.5%増加しました。

しかし、たむら市民大学たまりを「知らない」が54%と、回答者の半数を超えています。

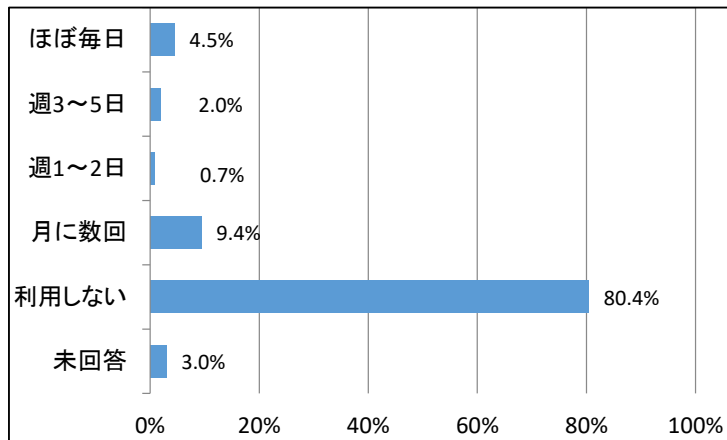
広報誌やSNSを活用しての、認知度の向上が課題だと思われます。

## ○公共交通について

問14 公共交通機関の利用頻度について

○「利用しない」が80.4%となっています。

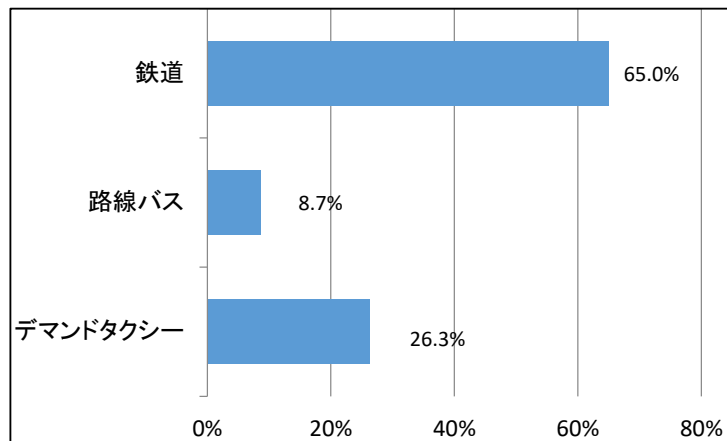
定期的に使う人は少なく、日常の移動手段としては車が中心であると考えられます。



問14で「知っている」と回答した方

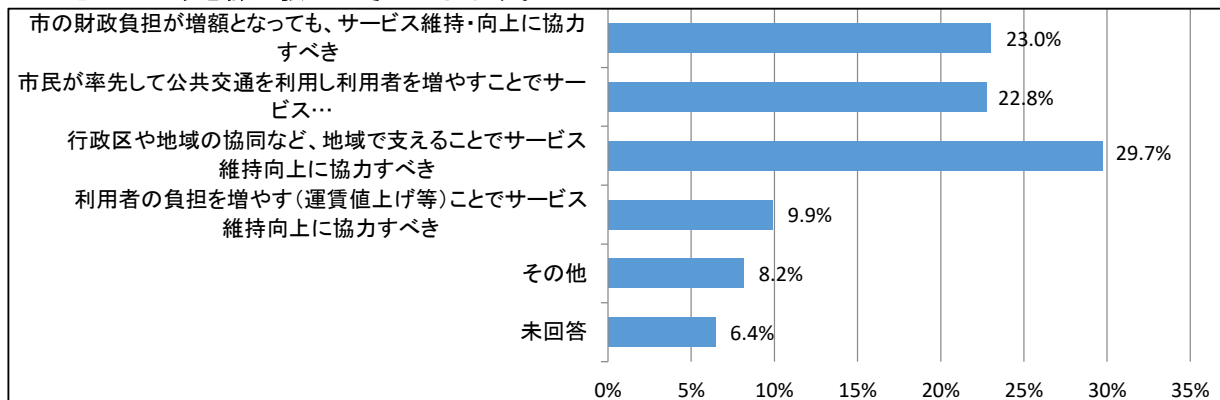
問14-① 利用している公共交通機関について

○最も利用されている公共交通機関は、「鉄道」で65.0%となっています。



問15 公共交通に対する考えについて

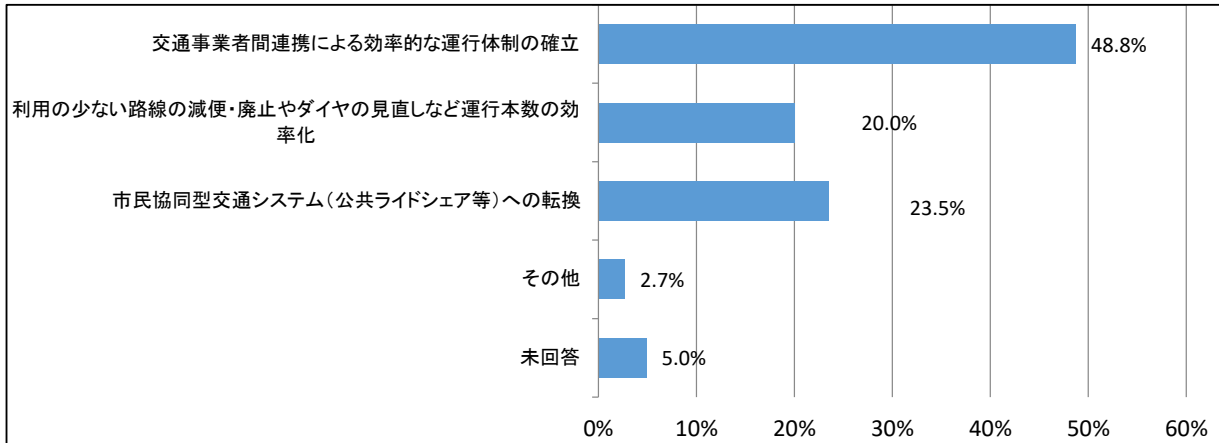
○公共交通の維持には、利用者負担の増加よりも、行政負担や地域・市民による支援で支えるべきだという意識が強いと考えられます。



問15 その他(記述) P38に記載

問16 将来の公共交通に対する考えについて

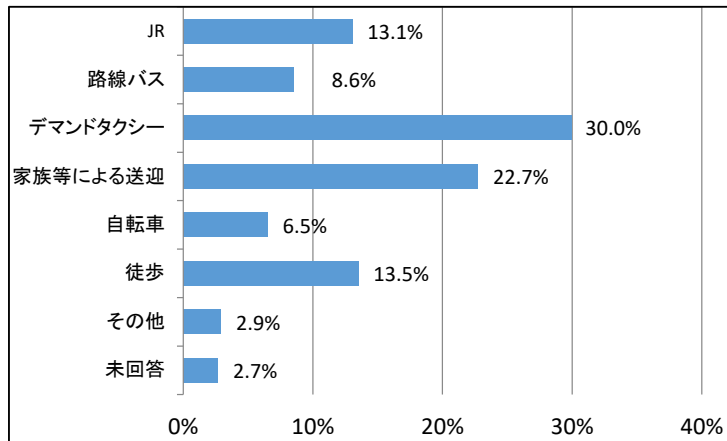
○市民は、将来の公共交通として効率的な運行体制を最も重視しており、路線見直しや公共ライドシェアなど、持続可能な交通体系への関心もみられます。



問16 その他(記述) P38に記載

問17 免許返納した際の交通手段について(複数回答)

○デマンドタクシーや家族支援への期待が大きくなっています。



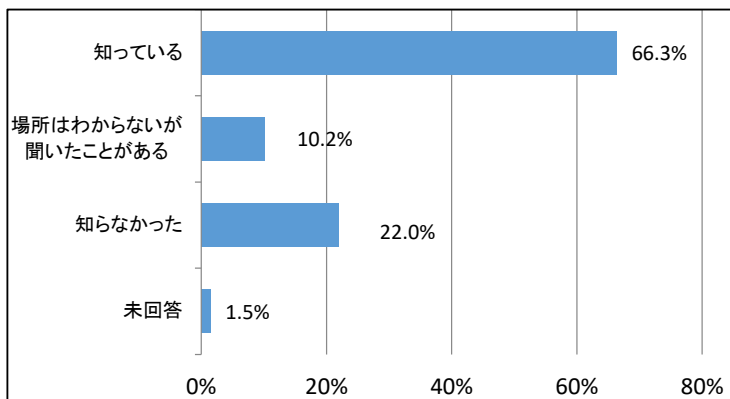
問17 その他(記述) 記載なし

○公共交通機関は日常的にはあまり利用されておらず、「利用しない」が80.4%で最も多く、利用者は鉄道を中心になっています。その一方で、将来的な公共交通の考え方については、地域や行政による支援、運行の効率化、デマンドタクシーなど柔軟な移動手段の活用が重視されていると読み取れます。

○田村スマートインターチェンジについて

問18 田村スマートインターチェンジの認知度

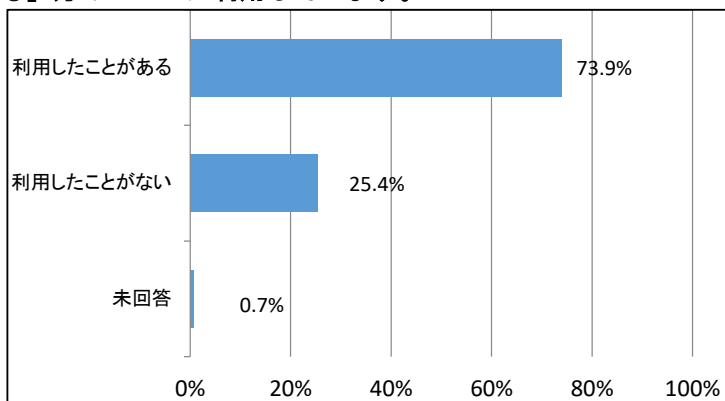
○「利用したことがある（知っている方）」との回答が全体の66.3%を占める一方で、田村スマートインターチェンジの存在を認知していない方が22.0%となっています。



問18で「知っている」と答えた方へ

問18-① 田村スマートインターチェンジの利用の有無

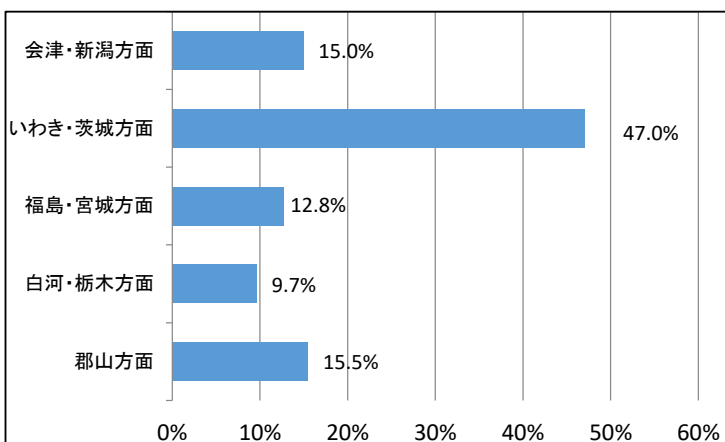
○「知っている」方の73.9%が利用しています。



問18で「利用したことがある」と回答した方へ

問19 スマートインターチェンジの利用方面

○田村スマートインターチェンジ利用者の47.0%が「いわき・茨城方面」となっており、船引三春インターチェンジと小野インターチェンジの中間地点として、いわき方面へのアクセスに大きく貢献しています。

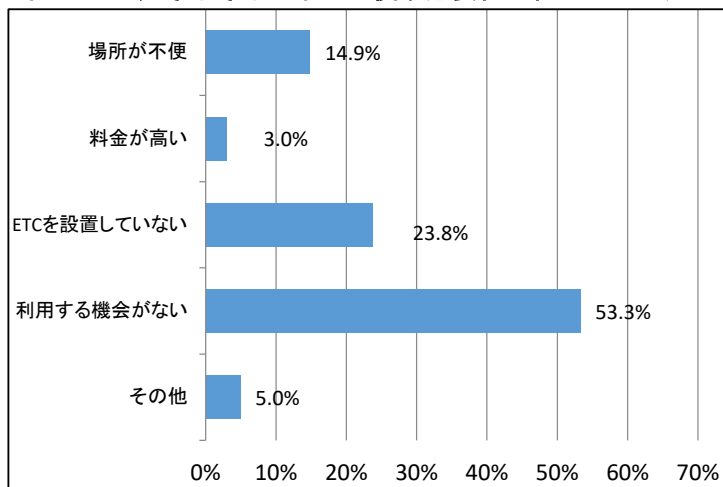


問18-①で「利用したことがない」と回答した方へ

問20 スマートインターを利用しない理由(複数回答)

○「利用する機会がない」が53.3%で半数を超えている。

利用しない理由として、そもそも日常的に使う必要性が低いことが大きいと考えられます。



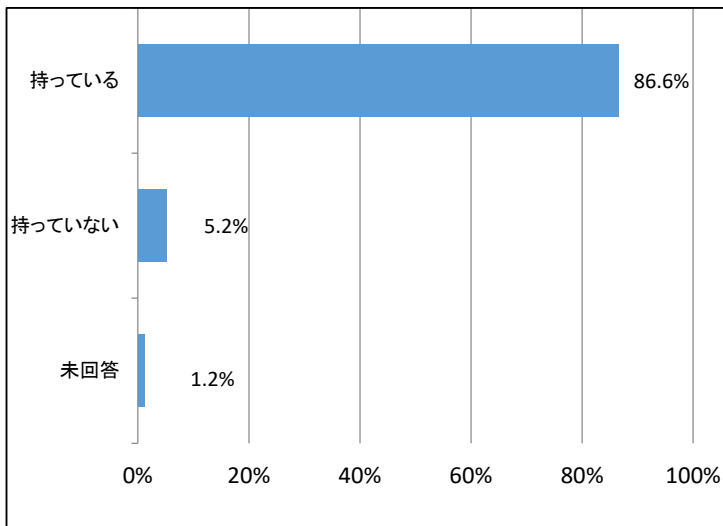
○田村スマートインターチェンジは、周知不足の解消と利用機会の拡大が課題と考えられます。

今後も皆様に田村スマートインターチェンジを利用していただけるよう周知し、利用促進に努めてまいります。

#### ○マイナンバーカードについて

問21 マイナンバーカードを持っているか

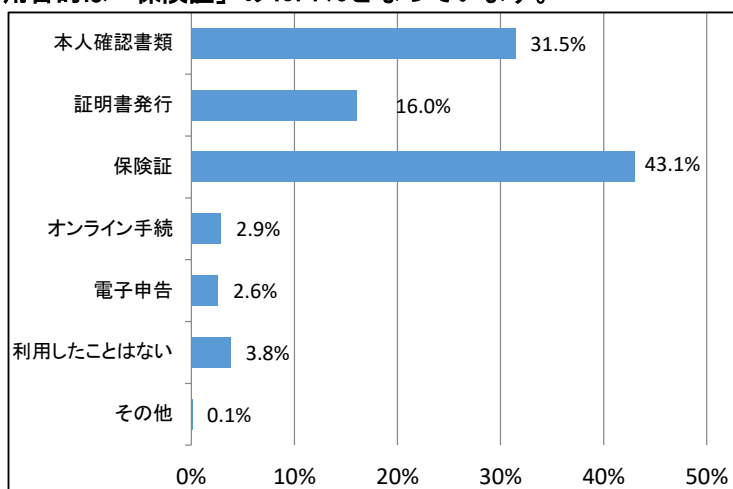
○「持っている」が86.6%、「持っていない」が5.2%となっています。



問21で「持っている」と答えた方へ

問21-① マイナンバーカードを利用した目的

○最も多い利用目的は「保険証」の43.1%となっています。



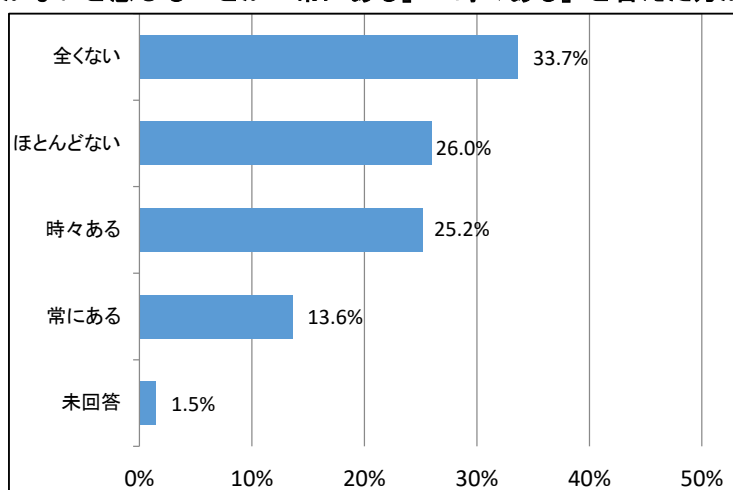
問21-① その他(記述) 記載なし

○マイナンバーカードを所持しているとの回答が86.6%となっている。主な利用目的は、保険証や本人確認書類としての利用が多くなっています。その一方でオンライン手続や電子申告で利用しているとの回答が低い傾向にあります。今後も利用方法等の周知に努めます。

## ○孤独・孤立について

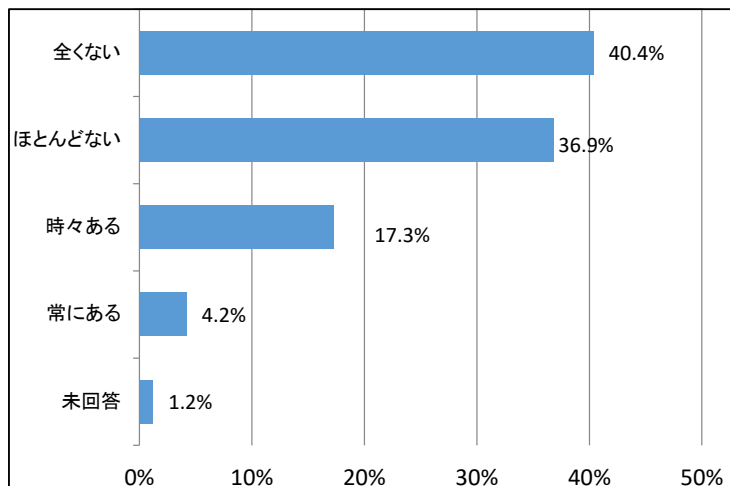
問22 人付き合いがないと感じるかについて

○人付き合いがないと感じることが「常にある」「時々ある」と答えた方が38.8%です。



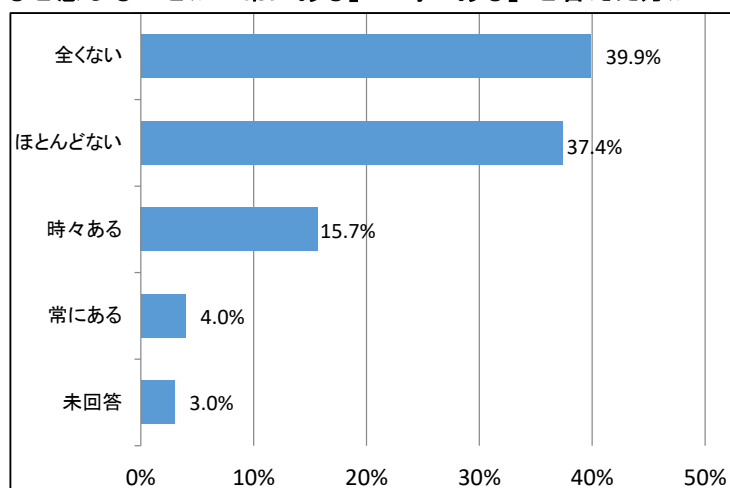
問23 取り残されていると感じるかについて

○取り残されていると感じることが「常にある」「時々ある」と答えた方が21.5%です。



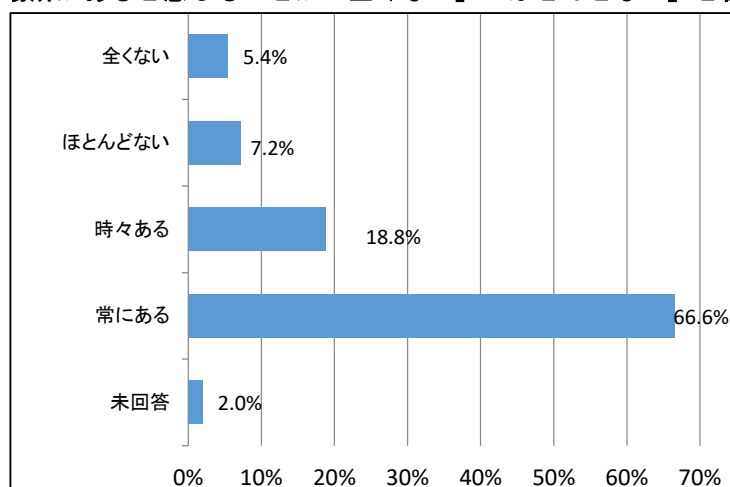
問24 他の人たちから孤立しているかについて

○孤立していると感じることが「常にある」「時々ある」と答えた方が19.7%です。



問25 あなたにとって安心できる場所があるかについて

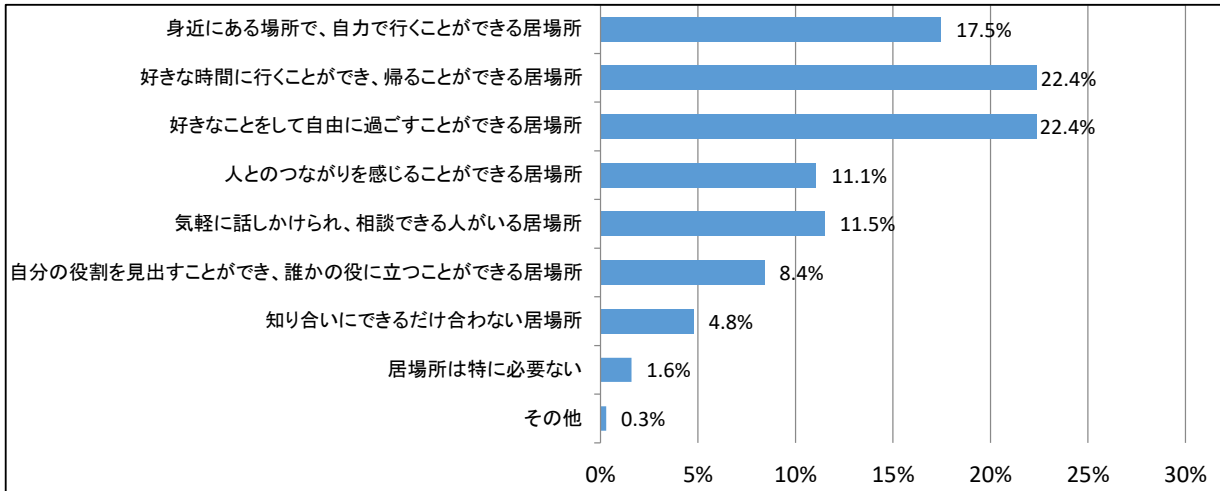
○安心できる場所があると感じることが「全くない」「ほとんどない」と答えた方が12.6%です。



問26 どのような居場所が欲しいかについて

○回答が最も多かったのは「好きなことをして自由に過ごすことができる居場所」と

「好きな時間に行くことができ、帰ることができる居場所」で、22.4%となっています。



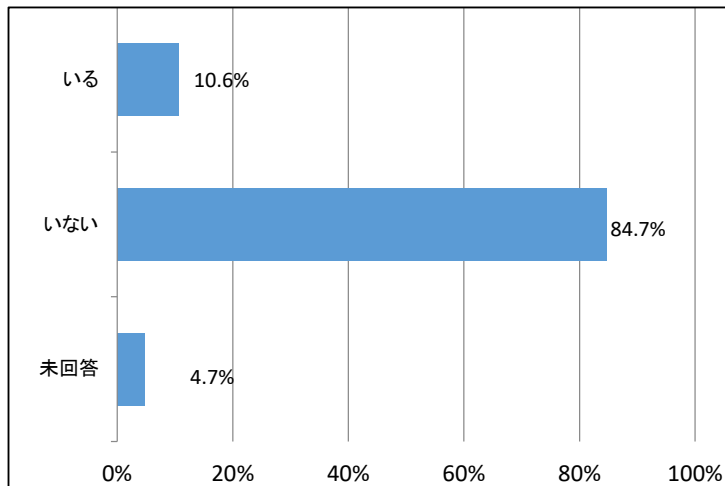
問26 その他(記述) P42に記載

○全体として、孤立感を抱く市民は一定数いる一方、求められているのは強い交流ではなく、自分のペースで安心して過ごせる自由な居場所だと分析できます。

### ○ひきこもりについて

問27 自信を含め、親族・知り合いに引きこもりがいるかについて

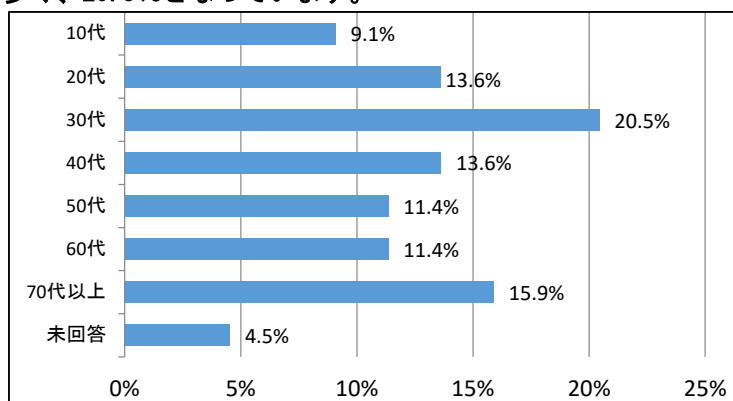
○ひきこもりが「いる」が10.6%となっています。



問27で「いる」と答えた方へ

問27-① 年齢は

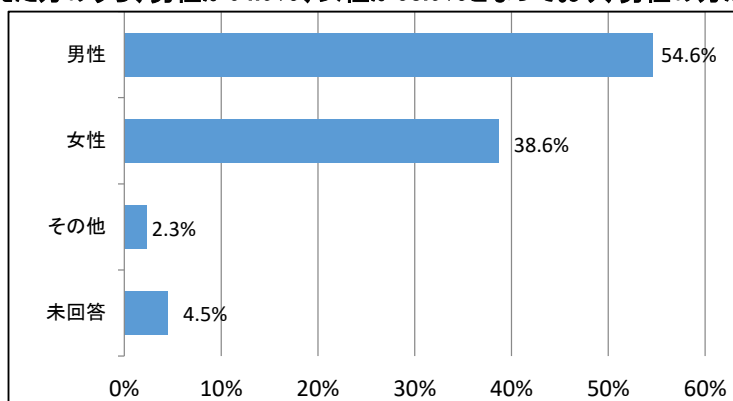
○30代が最も多く、20.5%となっています。



問27で「いる」と答えた方へ

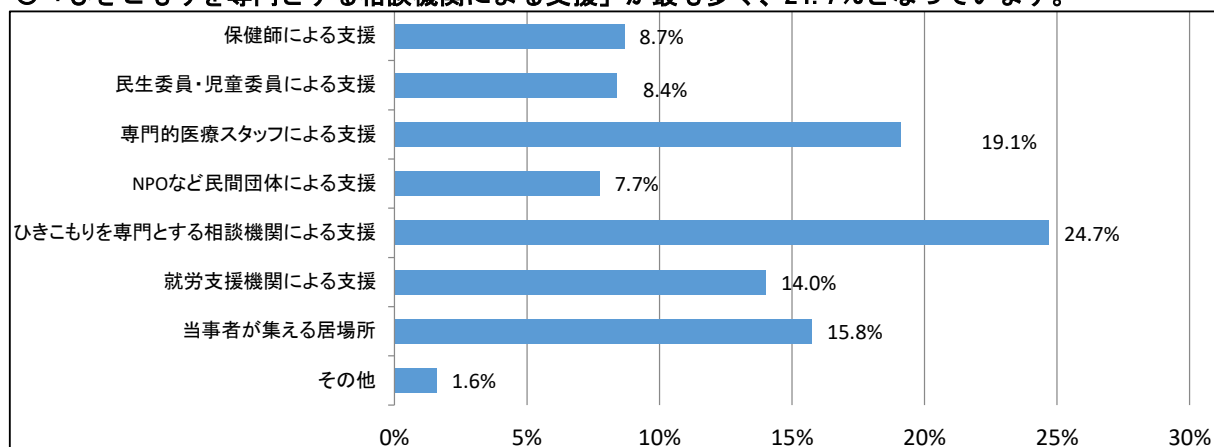
問27-② 性別は？

○「いる」と答えた方のうち、男性が54.6%、女性が38.6%となっており、男性の方が多い結果となりました。



問28 ひきこもりの方に対して必要な支援について(複数回答)

○「ひきこもりを専門とする相談機関による支援」が最も多く、24.7%となっています。



問28 その他(記述) P44に記載

○ひきこもりは30代が最も多く、性別は男性が多い傾向となりました。

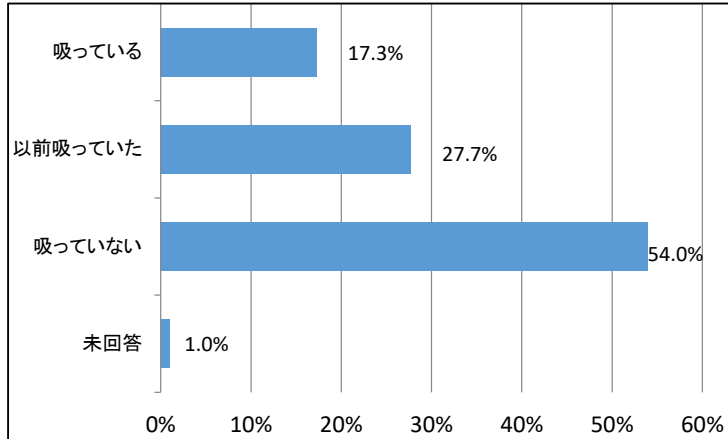
また、ひきこもり対策としては特に専門的な相談支援が求められていると分析できます。

## ○受動喫煙について

問29 喫煙の有無について

○「吸っている」「以前吸っていた」が45.0%となっています。

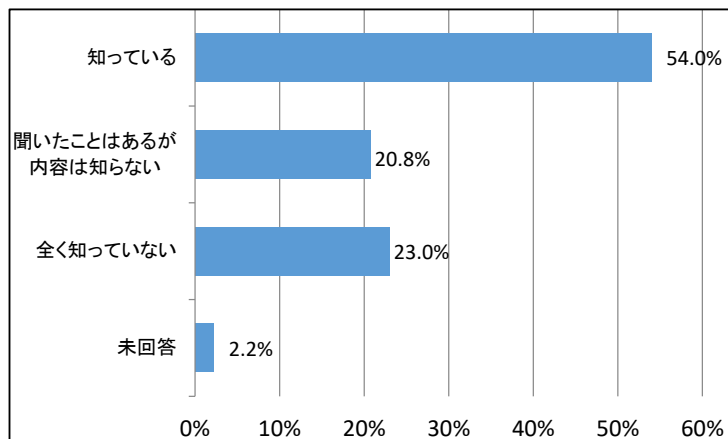
「吸っていない」と回答した方が54.0%と半数を超えています。



問30 「受動喫煙の防止に関する条例」の認知度について

○条例を「知っている」と回答した方が54.0%と半数を超えています。

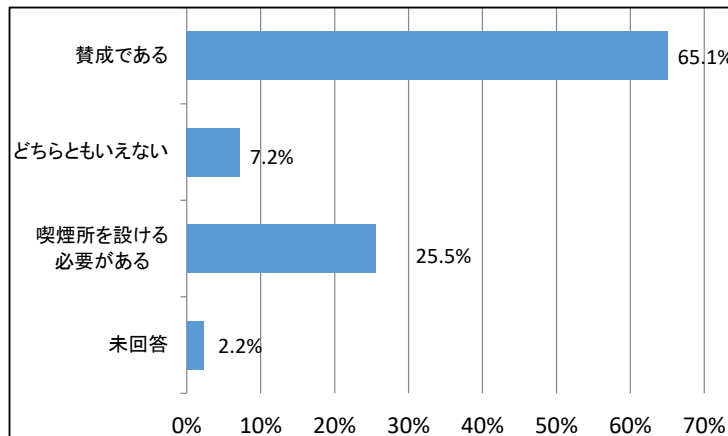
「聞いたことはあるが内容を知らない」「全く知らない」が43.8%となっています。



問31 公共施設の全面禁煙方針について

○「賛成である」と回答した方が65.1%と半数を超えています。

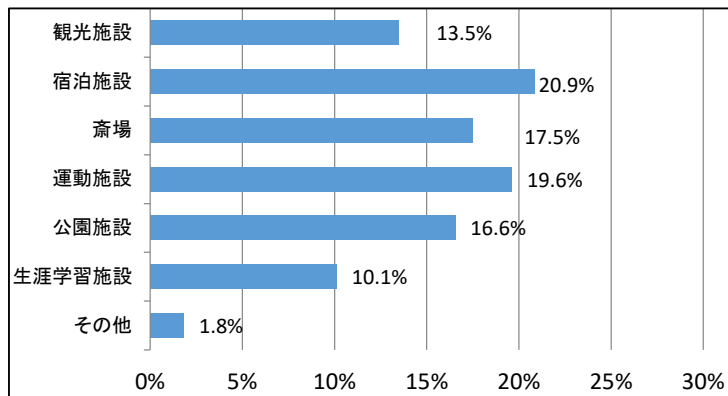
一方で「喫煙所を設ける必要がある」と回答した方が25.5%となっています。



問31で「喫煙所を設ける必要がある」と答えた方へ

問31-① 分煙環境が望まれる施設について

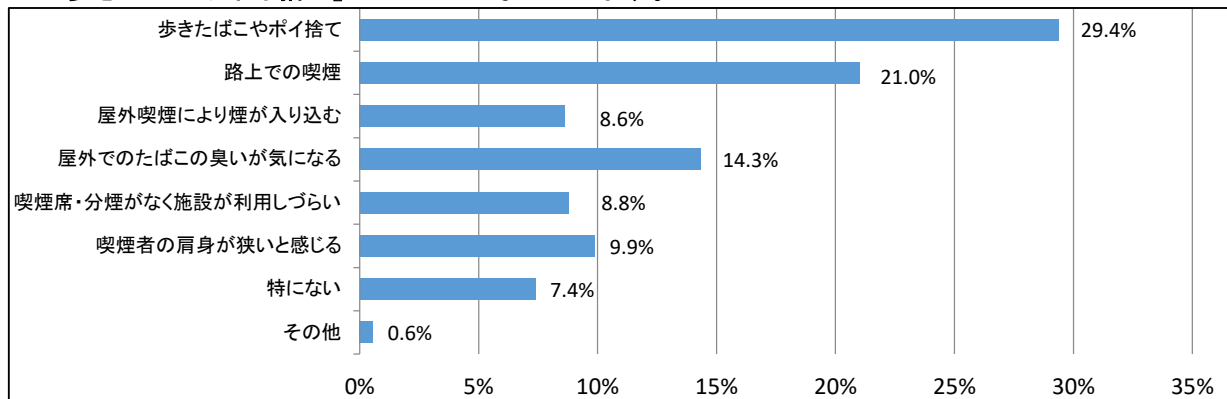
○「宿泊施設」と回答した方が最も多く、20.9%となっています。



問31-① 自由(記述) P45に記載

問32 「喫煙者・非喫煙者」として感じることにについて(複数回答)

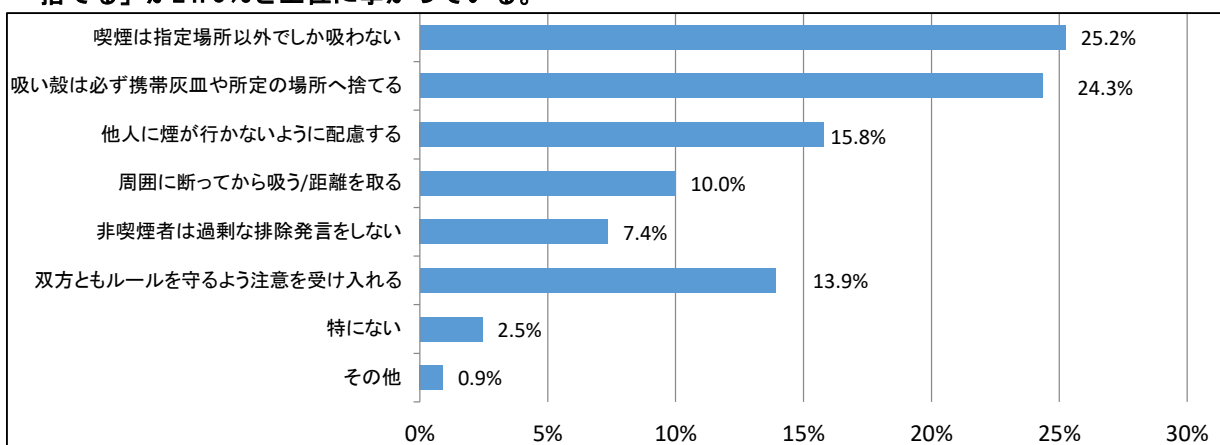
○「歩きタバコやポイ捨て」が29.4%となっています。



問32 自由(記述) P45に記載

問33 喫煙者・非喫煙者双方に求めたい配慮について

○「喫煙は指定場所以外でしか吸わない」が25.2%、「吸い殻は必ず携帯灰皿や所定の場所へ捨てる」が24.3%と上位に挙がっている。



問33 自由(記述) P46に記載

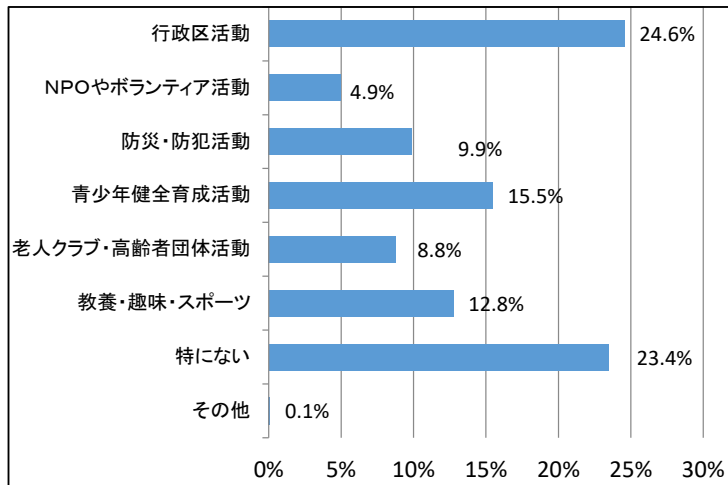
○禁煙方針に賛成である市民がいる一方で、分煙環境を望む声もありました。しかし、喫煙者のマナーを問題視している市民がいるため、喫煙マナーの向上が必要であると思われます。

## ○地域活動について

問34 現在、あるいは過去に参加したことがある地域・市民活動について

○「行政区活動」の回答が24.6%、「特にない」が23.4%となっています。

地域活動に参加している人はいるが、全体としては広く参加しているとは言にくい結果です。

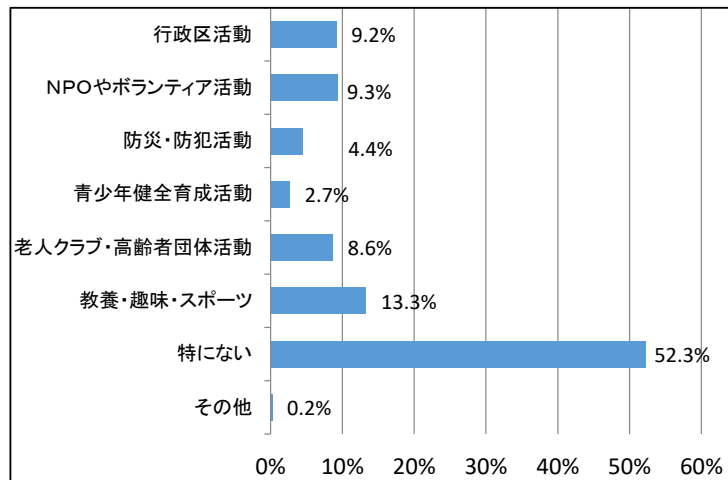


問34 その他(記述) 記載なし

問35 今後参加してみたい地域・市民活動について

○「特にない」と答えた方が52.3%と半数を超えています。

地域活動への関心は高いとは言えない傾向があります。



問35 その他(記述) 記載なし

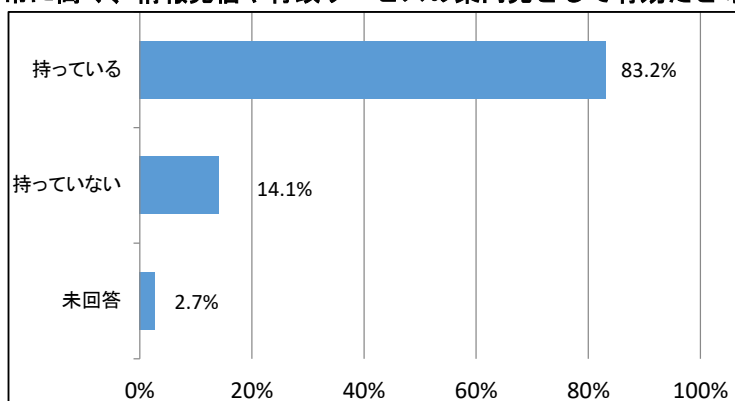
○市民の地域・市民活動への参加意欲や関心は低いものとなっています。

今後も地域に合った活動や支援等を検討してまいります。

## ○スマートフォンについて

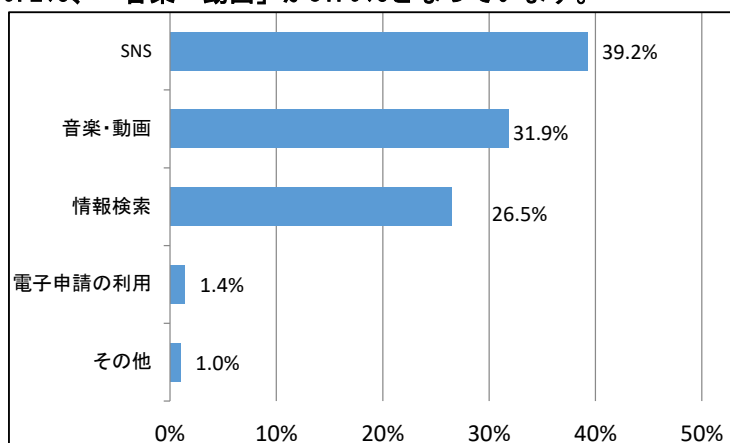
### 問36 スマートフォンの所有について

○所有率が非常に高く、情報発信や行政サービスの案内先として有効だと考えられます。



### 問37 スマートフォンの主な利用目的について

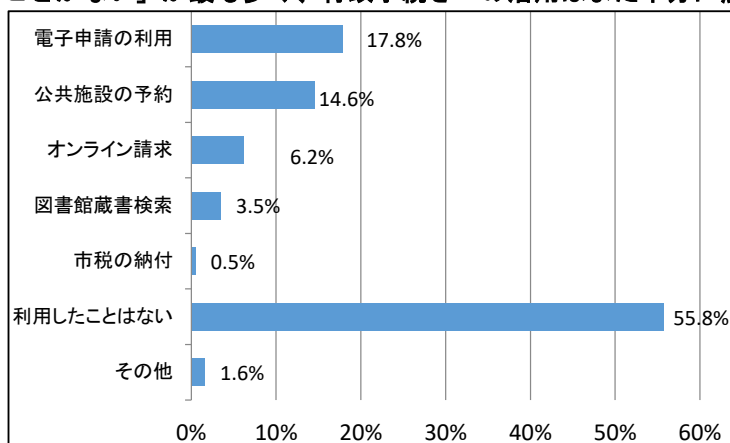
○「SNS」が39.2%、「音楽・動画」が31.9%となっています。



問37 自由(記述) P47に記載

### 問38 スマートフォンで利用したことのある行政サービスについて

○「利用したことがない」が最も多く、行政手続きへの活用はまだ十分に浸透していません。



問38 自由(記述) P48に記載

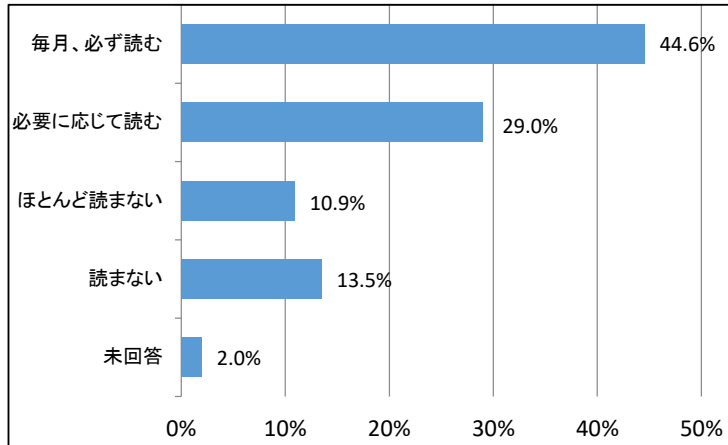
○スマートフォンの所有率は83.2%と高い一方で、行政サービスの電子利用については半数以上が利用したことがなく、十分に浸透していません。

今後は、行政手続きの利便性向上や利用促進に取り組む必要があると考えられます。

## 〇たむら市政だよりについて

問39 たむら市政だよりを読んでいるかについて

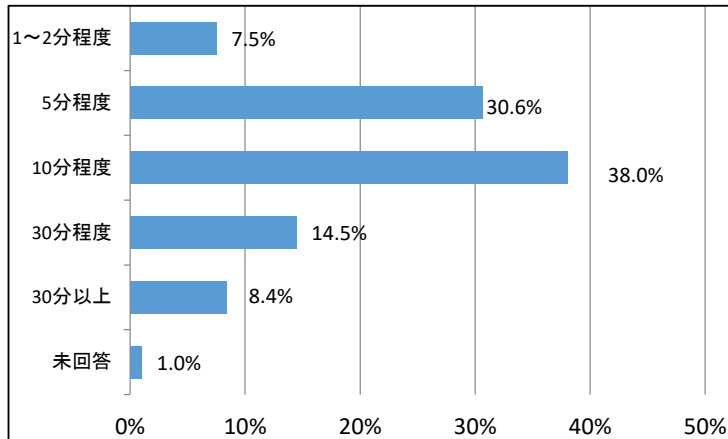
〇「読む」との回答が73.6%あり、市政情報の伝達手段として機能していると考えられます。



問39で読むと答えた方へ

問40 たむら市政だよりを読む時間について

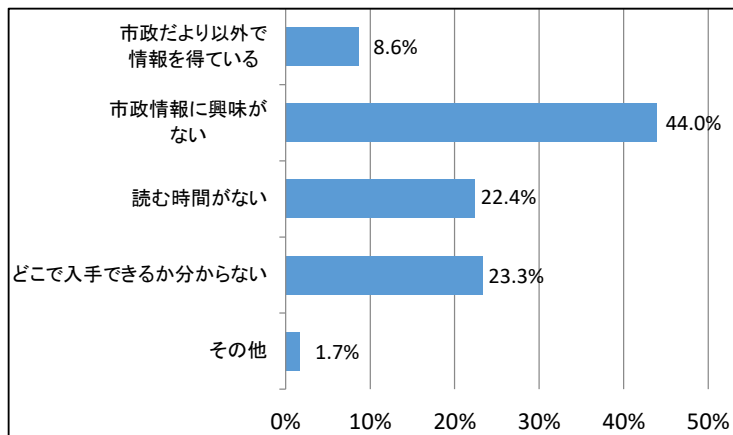
〇読む人の多くは10分以内で読んでおり、短時間で読まれていることが分かります。



問39で読まないと答えた方へ

問41 たむら市政だよりを読まない理由について

〇「市政情報に興味がない」が44.0%となっており、内容への関心不足が目立ちます。



問41 その他(記述) 記載なし

問42 取り上げてほしい内容・不必要な内容について

自由記載 P49に記載

○「たむら市政だより」のさらなる充実とイベント情報等のSNS活用により、  
市民が情報を迅速にわかりやすく入手できるよう、引き続き取り組みます。

#### ○その他

問43 生活の中での困りごと (自由記載) ※掲載なし

問44 市政運営についての意見・要望 (自由記載) 掲載なし